

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		都市計画審議会運営事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連								
総合計画体系	政策	1	人々が安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	辻 賢一郎					
	施策	6	計画的な土地利用の推進			所属課	都市計画課	担当者名	大塚 勝己					
	基本事業	17	計画的な市街地の作成			所属班	都市計画班	(内線)	2246					
予算科目	会計	1	款	8	項	4	目	1	事業連番	10172	法令根拠	都市計画法	成果優先度評価結果	11
												コスト削減優先度評価結果	6	
終了、開始年度	☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度		年度) 期間限定複数年度 (			年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	都市計画法の規定により、都市計画の決定(変更)に際し、都市計画審議会を開催する。市街化調整区域での土地利用の需要の高まりにより、地区計画策定の要請が増えており、開催数は増えている。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	委員の選任、同意書徴集、委嘱状作成、都市計画案・資料の作成、資料の配布、報酬・費用弁償の支払い
【主な予算費目】	報酬、費用弁償
【意見や要望】	特にない。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)

資料作成・配布、合志市都市計画審議会の開催、都市計画の案の説明、委員の報酬・費用弁償の支払い

22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)

資料作成・配布、合志市都市計画審議会の開催、都市計画の案の説明、委員の報酬・費用弁償の支払い

④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標

⇒ ア 付議された案件数

(単位)

件

イ

(単位)

② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

都市計画審議会委員

⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標

⇒ ア 付議された案件数

(単位)

件

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

都市計画の見直し(都市計画の決定・変更)案についてそれぞれの立場から意見を述べてもらう。

⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標

⇒ ア 承認された案件

(単位)

件

*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠

都市計画の見直し(都市計画の決定・変更)案について当審議会により慎重審議され承認されることにより、より良い土地利用が図られる

(2) 各指標・総事業費の推移

	単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア 件	7	3	4	3	4	4	
	イ							
⑤ 対象指標	ア 件	7	3	4	3	4	4	
	イ							
⑥ 成果指標	ア 件	7	3	4	3	4	4	
	イ							
投資 入 量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	繰入金	千円						
	一般財源	千円	192	320	320	124	284	320
	(A) 事業費計	千円	192	320	320	124	284	320
	(A)のうち指定経費	千円						
	(A)のうち時間外、特勤	千円						
	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4
人 件 費	延べ業務時間	時間	104	96	100	200	100	100
	(B)人件費計	千円	413	384	398	796	398	398
	トータルコスト(A)+(B)	千円	605	704	718	920	682	718

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

合志市

事務事業名	都市計画審議会運営事業	所属部	都市建設部	所属課	都市計画課
-------	-------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)
*原則は21年度の後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☐ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	都市計画の案に対しての委員の意見を求めるためには、事前に資料で理解を深めてもらうことが大切であるため、よりわかりやすい資料作りを常に心がけなければならない。	
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	市決定の都市計画は、都市計画審議会に諮らなければならないことが法律で定めてある。	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

都市計画の決定に際し、都市計画審議会を2回開催した。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

今後もわかりやすい説明を心掛ける必要がある。

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
低下				

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

法改正等による都市計画制度の改訂もあるため、適宜委員には説明を行う。